



ふくろうの郷 施設長だより

令和7年10月号

「沈黙は金」

最近、ニュースやSNSでヒグマの話題がたくさん取り上げられています。その中でも羅臼町は特に知床の知名度や悲惨な事故の影響もあり、心配や不安の声、いろんな意見が飛び交っています。

私は猟友会としても活動していますが、世の中で大きな声になっている意見（駆除に対する批判）とは違う考えを持っています。ですが、そういうとき、話し合っても折り合いはつかず、逆に肩身が狭いような気持ちになる可能性があります。言う言わないどちらにしてもあまり良い気持ちにはなれません。つい「自分の考えを伝えてみようか」と思いますが、反対意見の方が盛り上がり、結局は騒ぎがさらに大きくなってしまふことが予想されます。

そんなときに思い出したのが、「沈黙は金」という言葉でした。幼稚園教諭時代にお世話になった園長先生から聞いた言葉です。これは「むやみに言葉を重ねるより、あえて黙っていることのほうが価値を持つ」という意味だそうです。（チャットGPTで調べましたw）

言葉にしないことで、自分の心を守り、落ち着きを取り戻すことができる。そう考えると、黙っていることは消極的なことではなく前向きな選択なのかもしれません。

これは保育だけではなく介護の場面にもつながるなと感じます。子どもや入所者さんへつい言葉で注意、指摘をしたくなるとき、少し黙って見守ると、本人が自分で気づき、動いてくれることがあったり、実はさほど気にならないことだと気付いたり…。職員同士でも同じです、まずは黙って相手の話を聞くことで理解が深まることがあります。

沈黙は、ただの「黙る」ではなく、『人を尊重する時間』であり、『自分を整える力』にもなるのだと思います。これからも、言葉にすることと同じくらい、「黙って見守ること」も大事にしていきたいと思います。

米井